

平成29年度環境研究総合推進費 研究成果発表会

環境研究総合推進費は、環境省が必要とする研究テーマ(行政ニーズ)を提示して公募を行い、広く産学官の研究機関の研究者から提案を募り、評価委員会及び分野毎の研究部会の審査を経て採決された課題を実施する、環境政策貢献型の環境省の競争的資金です。

平成28年度及び平成29年度に終了した課題、戦略研究プロジェクトの中から、水環境に関連し、国民の皆様にもわかりやすく、関心も高いと考えられるものを選び、第52回日本水環境学会年会の協力を得て研究成果発表会を開催します。

研究成果の活用を検討されている自治体・企業の皆様、環境問題について研究を行っている研究者の皆様、環境研究総合推進費への応募をお考えの研究者の皆様など、幅広い方々のご来場を心よりお待ちしております。

日時

平成30年 3月17日(土) 9:30～15:10
(開場9:15)

参加費

無料

会場

北海道大学 工学部
フロンティア応用科学研究棟1階 セミナー室1
(北海道札幌市北区北13条西8丁目)

定員

100名

先着順、事前申し込みをお願いします。

※第52回日本水環境学会年会の参加登録がない場合でも参加可能です。

プログラム

9:30～9:35	開会挨拶	
9:35～10:05	基調講演	放送大学 理事・副学長 岡田 光正 (環境研究推進委員会 委員長)
10:05～10:25	環境行政の最新動向① 最近の水環境行政について	環境省 水・大気環境局 水環境課 課長補佐 林 誠
10:25～10:45	簡易型乾式メタン発酵による養豚排水処理と発酵残渣の有効利用(1-1404)	東京農工大学 大学院工学研究院 教授 細見 正明
10:45～11:05	使用済み海水淡水化膜を活用した途上国工業団地での工場排水再利用システムの開発(3K153006)	中央大学 理工学部 准教授 山村 寛
11:05～11:25	沿岸から大洋を漂流するマイクロプラスチックの動態解明と環境リスク評価(4-1502)	愛媛大学 大学院理工学研究科 教授 日向 博文
11:25～11:45	水銀の全球多媒体モデル構築と海洋生物への移行予測に関する研究(5-1405)	国立環境研究所 環境リスク・健康研究センター センター長 鈴木 規之
11:45～12:05	1,4-ジオキサンの環境動態の把握に基づいた土壌調査法の開発に関する研究(5-1503)	東北大学 環境科学研究科 教授 駒井 武
12:05～13:30	休憩	
13:30～13:45	環境行政の最新動向② 閉鎖性海域対策の現状	環境省 水・大気環境局 水環境課 閉鎖性海域対策室 室長 山本 郷史
13:45～14:05	閉鎖性海域・瀬戸内海における栄養塩濃度管理法の開発(S-13-1)	広島大学 環境安全センター 教授 西嶋 涉
14:05～14:25	開放性内湾が連なる三陸沿岸海域における沿岸環境管理法の開発(S-13-2)	横浜商科大学 商学部 特任教授 小松 輝久
14:25～14:45	陸棚・島嶼を含む国際的閉鎖海域・日本海の海域管理法の開発(S-13-3)	(公財)環日本海環境協力センター 地域活動センター 主任研究員 吉田 尚郁
14:45～15:05	沿岸海域管理のための統合数値モデル構築 －テーマ1～3を中心に－(S-13)	(公財)国際エメックスセンター 特別研究員 柳 哲雄
15:05～15:10	閉会挨拶	

主 催: 独立行政法人 環境再生保全機構

後 援: 公益社団法人 日本水環境学会

Profile

放送大学 理事・副学長
(環境研究推進委員会 委員長)

岡田 光正

(おかだ みつまさ)

1971年東京大学工学部卒業。国立環境研究所、広島大学工学部教授、同大学大学院工学研究科長・工学部長を経て、同大学理事・副学長。2011年に放送大学教養学部教授、2017年より現職。日本水環境学会顧問。

東北大学
環境科学研究科 教授

駒井 武

(こまい たけし)

2012年より東北大学環境科学研究科教授。産業技術総合研究所研究部門長、中央環境審議会専門委員、東京都環境審議会、社会地質学会会長等を歴任。専門分野は、環境リスク評価、環境地質学。

東京農工大学
大学院工学研究院 教授

細見 正明

(ほそみ まさあき)

1976年大阪大学工学部環境工学科卒業。国立環境研究所主任研究員、米国家環境保護庁リスク削減工学研究所客員研究員を経て、東京農工大学工学部助教授。1997年より現職。専門は、環境動態解析、環境技術・環境材料。

広島大学
環境安全センター 教授

西嶋 渉

(にしじま わたる)

1992年広島大学工学部助手。その後、広島大学工学研究科助教授を経て、2005年広島大学環境安全センター教授、2006年同センター長。2012年より広島大学研究企画担当副理事。専門は水環境工学。

中央大学
理工学部 准教授

山村 寛

(やまむら ひろし)

2008年北海道大学工学部研究科博士後期課程卒業後、旭化成で、水処理膜の開発に従事。2013年より中央大学にて、膜を利用した様々な水処理技術の他、膜の廃棄物問題についての研究に取り組む。専門は、上下水道、固液分離。

横浜商科大学
商学部 特任教授

小松 輝久

(こまつ てるひさ)

1976年京都大学農学部卒、同博士課程修了、博士(農学)。京都大学農学部助手、東京大学海洋研究所助教授を経て、横浜商科大学教授。専門は海洋生態学、水産海洋学。日仏海洋学会会長。

愛媛大学
大学院理工学研究科 教授

日向 博文

(ひなた ひろふみ)

1995年東京工業大学工学部助手。港湾技術研究所主任研究員を経て、国土技術政策総合研究所主任研究員、2007年同沿岸域システム研究室長。2014年から現職。専門は、沿岸海洋物理、海岸工学。

(公財)環日本海環境協力センター
地域活動センター 主任研究員

吉田 尚郁

(よしだ たかふみ)

2004年東京大学大学院農学生命科学研究科修了、博士(農学)。2006年より環日本海環境協力センターに所属、2011年より現職。NOWPAP、CEARACの事務局として国際環境協力に従事。専門分野は、海洋環境、国際環境協力。

国立環境研究所 環境リスク・健康研究センター センター長

鈴木 規之

(すずきの りゆき)

1986年東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻修士課程修了。博士(工学)。東京大学工学部助手、金沢工業大学講師を経て、2000年国立環境研究所地域環境研究グループ総合研究員、2015年より現職。専門は環境工学、環境化学。

(公財)国際エメックスセンター
特別研究員

柳 哲雄

(やなぎ てつお)

1974年京都大学大学院理学研究科地球物理学専攻修士課程修了。愛媛大学教授、九州大学応用力学研究所長を経て、退職後、九州大学名誉教授。2014年より現職。沿岸海洋学の研究に携わる。



ACCESS

地下鉄南北線をご利用の場合

- 北12条駅から徒歩約7分で「北13条門」に到着
- イチョウ並木を通り約5分で工学部正面玄関前に到着

JR線をご利用の場合

- 札幌駅北口から徒歩約7分で正門に到着

北海道大学大学院工学院・大学院工学研究院・工学部
ウェブサイトより

<http://www.eng.hokudai.ac.jp/access/>
<http://www.eng.hokudai.ac.jp/building/>

参加申し込み先

https://krs.bz/erca/m/public_symposium

■締め切り: 3月15日(木)ただし、定員(100名)に達し次第、締め切ります。

